

2009年8月18日

## ランクセス、第2四半期において収益回復

ランクセス株式会社

- 第2四半期の売上高は、前期比17%増の12億4,000万ユーロ
  - 特別項目調整前 EBITDA\*<sup>1</sup> は、前期比70%増の1億1,200万ユーロで、第1四半期業績発表時の予測範囲内(1億~1億2,000万ユーロ)
  - 純利益は、1,700万ユーロ
  - 営業活動からのキャッシュフローは、前年同期比で2倍弱となり、純負債は減少
  - 2012年までに3億6,000万ユーロの経費削減プロジェクト「チャレンジ09」と「チャレンジ12」の実施
  - 第3四半期の特別項目調整前 EBITDA は、第2四半期とほぼ同水準の見通し
- \*<sup>1</sup> EBITDAは、税引前利益に、減価償却費、および支払利息を加算した金額です。

特殊化学品メーカーのランクセス(LANXESS)は、2009年第2四半期の業績を発表しました。世界的に困難な経済状況にも関わらず、2009年第1四半期に比べ、第2四半期は利益が大幅に増加しました。特別項目調整前 EBITDA は、1億1,200万ユーロで、第1四半期の業績発表で予測した今期 EBITDA の結果(1億~1億2,000万ユーロ)の範囲内でした。2009年第2四半期の特別項目調整前 EBITDA は、前年同期比50%減、前期比70%増となりました。これは、特にアジア地域における販売量が大幅に増加したことと、経済危機対策プロジェクト「チャレンジ09」によるコスト削減の成果によるものです。さらに、主要指標である特別項目調整前 EBITDA マージン\*<sup>2</sup> は、第1四半期の6.3%から第2四半期は9%に増加しました。

売上高は、前年同期比30%減の12億4,000万ユーロとなりましたが、特にパフォーマンスポリマーズ部門における堅調な販売量の回復により、前期比17%増となりました。2期連続赤字であった純利益は、今期は1,700万ユーロと黒字に転じました。営業活動からのキャッシュフローは、1億5,700万ユーロと前年同期に比べほぼ倍増し、純負債は2008年度末より17%減の7億1,900万ユーロまで削減、ランクセスの第2四半期の業績は、同社の健全な財務状態を改めて示しています。運転資本の改善に注力したことが、営業活動からのキャッシュフローの増加につながりました。

ランクセスの CEO であるアクセル・ハイトマンは次のように述べています。「厳しい環境にある化学業界において、ランクセスが第2四半期に堅調な結果を達成することができた主な理由は、需要の増加だけでなく、経済危機に対処するためのプロジェクトを素早く実行したことにあります」

### 「チャレンジ09」と「チャレンジ12」

今後の収益および財務状態を維持するため、ランクセスの経営陣と従業員代表、IGBCE(ドイツの鉱業・化学・エネルギー労働組合)は、今年始めに合意した経費削減対策プロジェクト「チャレンジ09」の延長と、追加プロジェクト「チャレンジ12」の導入に合意しました。

「チャレンジ09」は、技術工程の改善と全ての管理職の給与削減を2つの柱に経費削減を実行するプロジェクトです。ランクセスは、同プロジェクトで2009年および2010年で世界的に約2億5,000万ユーロの経費削減を目指します。

ランクセスは今後、「チャレンジ09-12」で2012年までに世界的に総額3億6,000万ユーロの経費削減を目指します。新たな1億1,000万ユーロの削減を、柔軟な資産管理や従業員の給与削減などを通し実現します。これらのプロジェクトは、損益計算書に追加経費を発生させるものではありません。

「チャレンジ12」の実施により、ランクセスは今後2年間における経済危機の影響に柔軟に対処することが可能で、経済の回復時には優位性を発揮することができます。

### 事業分野別の業績

**パフォーマンスポリマーズ部門:**同部門は、ゴム事業とセミクリスタリンプロダクツビジネスユニットから構成され、売上高は、特にパフォーマンスブタジエンラバーズビジネスユニットにおけるアジア地域での需要が増加し、前期比25%増の5億5,900万ユーロとなりました。特別項目調整前EBITDAは、前期の800万ユーロから5,200万ユーロに増加しました。これは、第1四半期における顧客の在庫調整および棚卸資産の評価減などのマイナス幅が減少したほか、経費削減プロジェクトの貢献によるものです。売上高は前年同期比38%減、特別項目調整前EBITDAは同59%減となりました。

**アドバンスト中間体部門:**同部門は、基礎・精密化学品から構成され、売上高は、農薬分野における販売量が増加し、前期比10%増の2億8,500万ユーロとなりました。特別項目調整前EBITDAは、原料費の高騰および自動車や建設業界で続く低迷が影響し、前期比17%減の3,800万ユーロとなりました。売上高は前年同期比11%減、特別項目調整前EBITDAは同22%減となりました。

**パフォーマンスケミカルズ部門:**同部門は、複数の特殊化学品ビジネスユニットから構成され、売上高は、前期比14%増の3億8,500万ユーロとなりました。自動車および建設業界の困難な状況にも関わらず、無機顔料、皮革用化学品、物質保護剤の各ビジネスユニットが牽引し、好業績となりました。特別項目調整前EBITDAは、堅調な需要増加と費用削減プロジェクトにより、前期

比 13%増の 4,400 万ユーロとなりました。売上高は前年同期比 26%減、特別項目調整前 EBITDA は同 44%減となりました。

### 地域別業績

EMEA(ドイツを除いた欧州、中東、アフリカ)、ドイツ、北米と中南米の各地域の第 2 四半期の売上高は、前期比 1 桁増となりました。

アジア太平洋地域の第 2 四半期の売上高は、中国、韓国、インドが牽引役となり、低迷した第 1 四半期より 74%増の 3 億 400 万ユーロを達成しました。第 2 四半期における売上高の急増は、ランクセスの総売上高に占める同地域の売上高を 25%まで引き上げました。

アジア太平洋地域を除く全地域の第 2 四半期の売上高は、前年同期比で 2 桁の減少となりましたが、アジア太平洋地域は、前年同期比で 1 桁の減少でした。

### 今後の見通し

ランクセスは、中南米、北米、欧州地域において需要底入れの兆しがあると考え、アジア地域では引き続き好調な需要を、その他の地域では緩やかな回復が始まると予測しています。顧客の在庫調整はほぼ完了しましたが、在庫補充の動きはまだありません。

全体的に依然として困難な経営環境が景気回復の妨げとなる可能性を考慮し、ランクセスは、2009 年通年の予測は第 3 四半期の業績報告(11 月 12 日に予定)の際に発表します。売上高および収益予測は、第 1 四半期業績での発表通り、前年レベルを下回ることに変わりはありません。

ランクセスは、2009 年第 3 四半期の特別項目調整前 EBITDA は、第 2 四半期と同水準を目標としています。これまでの傾向で、第 3 四半期は夏の低迷時期が含まれることもあり、営業利益が第 2 四半期を下回る(平均 15%減)ため、これは意欲的な目標です。

需要の増加と経費節減対策プロジェクトの拡大により、経済危機局面においても経営基盤の強化につなげていきます。

## 2009年第2四半期 主要データ

(単位:百万ユーロ、変動率:%)

	2009年度 第2四半期	2009年度 第1四半期	変動率 2009年 第1四半期比	2008年度 第2四半期	変動率 2008年 第2四半期比
売上高	1,238	1,054	+17.5	1,765	-29.9
特別項目調節前 EBITDA	112	66	+69.7	223	-49.8
特別項目調節前 EBITDA マージ ン(%)	9.0	6.3		12.6	
純利益(損失)	17	-14		55	-69.1
営業活動からの キャッシュフロー	157	122	+28.7	82	+91.5

\*<sup>2</sup> EBITDAマージンは、売上高に対するEBITDAの比率です。

# # #

このリリースは、ドイツ・レバークゼンで8月12日に発表されたリリースをもとに、ランクセス株式会社が発表したものです。

このリリースの原文(英語)は、以下のURLにてご参照下さい。 <http://www.press.lanxess.com>

### ランクセスについて

ランクセスは、世界23カ国で事業を展開する大手特殊化学品メーカーです。2008年の総売上は65億8000万ユーロにのぼり、全世界の従業員数は約14,600人、世界中に44の拠点を展開しています。主な事業は、プラスチック、合成ゴム、中間体、特殊化学品の開発、製造とマーケティングです。ランクセスについての詳細は同社URLにてご確認下さい。 <http://www.lanxess.co.jp>

本件に関するお問い合わせ先:

ランクセス株式会社 コーポレートコミュニケーションズ

佐野 公美

TEL : 03-5293-8005 FAX : 03-5219-9773

kumi.sano@lanxess.com

**免責について (Forward-Looking Statement):**

このニュースリリースには、ランクセス経営陣による現在の仮定と今後の予測に基づく記述があります。既知あるいは未知の各種リスクや不確定性、その他の要素により、本頁に記載された予測と弊社の今後の総合売上高、財務状況、業績の数字が異なる場合があります。弊社は、ニュースリリースの記載事項を更新、もしくは今後の出来事や進展状況に合わせ、内容を変更する義務はないものとします。

(2009-00148J)